

令和元年12月25日(水)
 国土交通省関東地方整備局
 東日本高速道路(株)関東支社
 首都高速道路(株)

— 記者発表資料 —

～都心を迂回して埼玉と千葉をつなぎ広がる効果～

東京外かく環状道路(三郷南IC～高谷JCT)開通後の整備効果

- ・ 沿線地域における物流施設の増加により地域の利便性が向上
- ・ 千葉ベイエリアが身近になり、埼玉・北関東方面からの観光が活発化

<物流>

- 物流施設の新規立地が120件増加(約5.5倍)(H12～H21年→H22～R元年)
- 外環道千葉区間沿線地域の工業地地価が約12%上昇(H21年→H31年)
- 湾岸地域(市川)からの1時間配送圏域が約2割拡大(圏域内世帯数110万世帯増加)し、首都圏の利便性が向上
- 中央環状内側の首都高(中央環状含む)の渋滞損失時間が約3割減少
(前回公表(1月9日)した減少割合と同様の効果が継続)

<観光>

- 高速道路から千葉ベイエリアへの出口交通量が6%増加し、埼玉・北関東方面からの観光機会の増加に寄与(H29.9→H30.9)
- 千葉県(浦安地域)における滞在時間が約150分増加
(H29.6～H30.3→H30.6～H31.3)

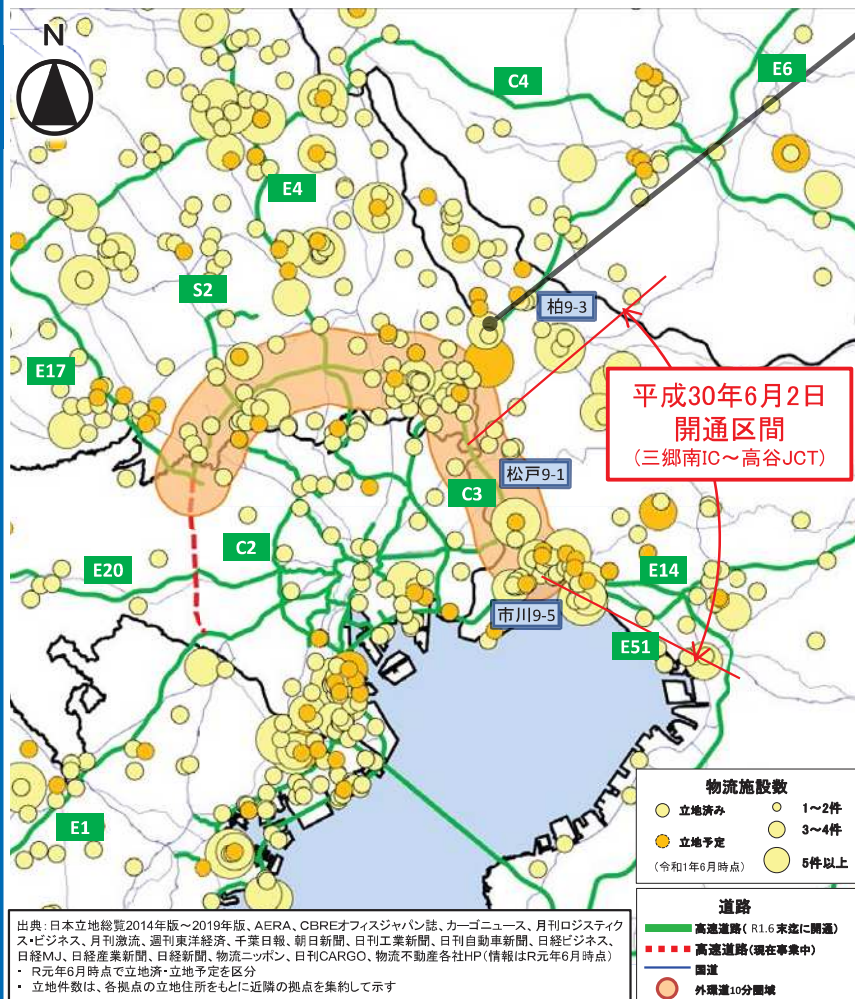
<安全・安心>

- 都心から外環道への交通転換により、都心における大型車の交通量は減少傾向
- 交通事故件数が国道298号に並行する県道で約3割減少し、交通環境が向上

外環道沿線で、物流施設の立地が進展

- 外環道沿線に新規立地した物流施設は120件(H22年～R元年)。
- 外環道千葉区間沿線地域の工業地地価は約12%上昇(H21年→H31年)。

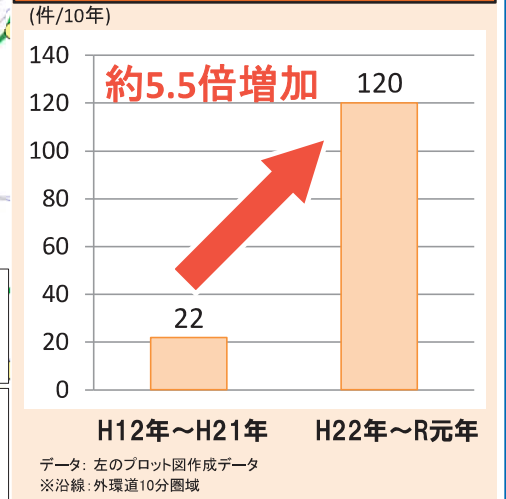
物流施設の立地状況(平成22年以降に立地した、または立地予定の物流施設)



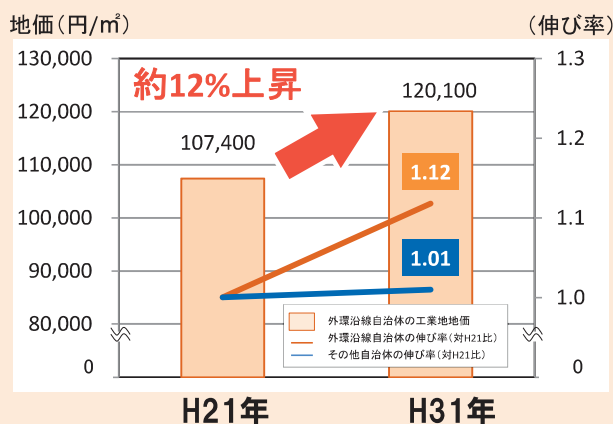
● 担当者の声
外環道整備による混雑緩和などによって、輸送における正確性が高まり、サービス品質の維持・向上につながります。

出典：ヤマト運輸ヒアリング結果(R元.9)

外環道沿線に立地する物流施設の増加



外環道千葉区間沿線地域の工業地地価の上昇(H31/H21)



データ：H21年、H31年における地価公示(国土交通省)の同一基準地を抽出して集計
※沿線自治体：葛飾区、三郷市、松戸市、市川市
その他自治体：1都2県(東京都・千葉県・埼玉県)から沿線を除いた値

主な地価上昇要因(H31年/H30年)

平成30年6月の外環道千葉区間開通により、松戸・市川のICを経由して湾岸部に直結し利便性がさらに増している。松戸市内の製造業工場・倉庫が混在する工業団地では、倉庫への建替えも徐々に行われている箇所がみられる。



標準地番号	H31年工業地地価(対前年変動率)
柏 9-3	85千円/㎡(+5.6%) (工業地変動率東京圏8位)
松戸 9-1	108千円/㎡(+8.0%) (工業地変動率東京圏2位)
市川 9-5	172千円/㎡(+3.6%)

データ：国土省関東地方整備局建設部「平成31年地価公示の結果概要(関東地方整備局管内の地価動向)について」 H31年3月27日